

シタル時ハ其權消絶ス

第二十八條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラル、時ハ之ヲ止メ更ニ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第二十九條 軍人死没シ扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受クル寡婦再嫁若クハ復籍シテ孤兒ナク尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫ナキ時ハ其情狀ニ依リ寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二ヲ終身給スルコトアル可シ其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死没若クハ權利消絶スルコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ之ヲ轉給スヘシ但父及ヒ祖父ハ年齢五十歳以上其未滿ハ癡疾又ハ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者又母及ヒ祖母ハ夫ナキ者ニシテ且孰レモ軍人死没ノ際年齢五十歳以上ニシテ其戶籍ニ在ル者ニ限ル

第三十條 扶助料ヲ仰カントスル時ハ本人主名ヲ以テ親族二名及ヒ後見人アレハ其後見人若シ親族ナキ時ハ同郷ノ戶主二名連署シ其郡區長戸長ノ與印セル願書ヲ以テ之ヲ地方廳ニ呈ス可シ

其夫若クハ父戰死其他公務ノ爲メ直ニ死亡セシ者ハ見證書若クハ公文ノ内其一ヲ證據ニ供シ其傷疾疾病ニ基ク者ハ該將類ノ外尙ホ軍醫若クハ地方醫師ノ診斷證書ヲ證據ニ供スヘシ但地方醫師ノ診斷ヲ受ケタル時ハ尙ホ地方官吏ノ檢視證書ヲ添附シ死没ノ原因ヲ證明ス可シ

第四章 服役年算則

第三十一條 服役年ノ始期及ヒ終期ノ例ハ左ノ各項ニ依ル可シ

一 明治四年八月ヲ以テ始期トス故ニ其以前ヨリ勤仕ノ者ト雖モ總テ同月ヲ以テ始トス但明治四年八月以前ヨリ勤仕シタル者ハ明治四年七月ノ現官等ニ對スル俸給ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一ケ年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別ニ一時賜金トシテ給與ス

二 下士以上ハ其初任當日ヨリ起算ス

三 徴兵ハ入營初日即チ毎年四月二十日ヨリ起算ス

四 壯兵其他諸種ノ方法ヲ以テ軍籍ニ入リタル者ハ其就役ノ當日ヨリ起算ス

五 上長官士官准士官ハ退職恩給ノ願書該長官ヨリ陸軍卿ニ呈スル進達書ノ日ヲ以テ終期トス

六 下士卒ハ免官免役ノ日ヲ以テ終期トス

第三十二條 十七歳未滿ハ恩給服役年ノ計算ニ算入セス

士官以上待命及ヒ非職中ノ月日ハ服役實期ニ算入ス但非職中地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ從事シ其給料ヲ受ケ非職俸ヲ給セサル時間ハ之ヲ除算ス

第三十三條 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナル者ハ海軍服務ノ年月ヲ通算ス又文官轉シテ陸軍軍人トナリタル者並ニ陸軍軍人ノ現役ニ在ラスシテ文官ヲ兼任シ文官ノ俸給ヲ受クル者恩給ヲ受クルノ期ニ至ル迄ハ其文官奉仕中ノ年月ハ十六箇月ヲ以テ一年トシ之ヲ通算ス

第三十四條 兼前後備ニ在ルノ月日ハ服役實期ニ算セスト雖モ復習ノ外現役ニ徵集スルヲアルトキハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十五條 退職免役ノ後再ヒ現役ニ就ク者ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十六條 逃亡ノ者其逃亡以前ノ現役ハ其歸營以後ノ現役ニ通算ス

第三十七條 處刑中ノ日數ハ現役年數中ヨリ除算ス

第三十八條 戰時虜獲ニ遭ヒ俘囚トナリタル月日ハ猶ホ平時現役ニ在ルト同シク之ヲ算ス

第五章 從軍年算則

第三十九條 從軍年ハ服役實期外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スル者トス但其服役實期十一年未滿ニシテ退身スル者ニハ之ヲ加算セス

第四十條 從軍年加算ノ法ハ左ノ各項ニ依ル可シ

- 一 日本國外ノ戰地ニ於テ服役スル時ハ二箇年ヲ増加ス
- 二 出征軍ニ編入セラレ或ハ合圍若クハ臨戰地境內ニ於テ服役セシ時又戰時平時ヲ論セス日本國外ノ地ニ於テ鎮戍ノ軍隊ニ在リシ時及ヒ海戰ニ當リ其船中ニ在リシ時ハ一年ヲ増加ス
- 三 海戰ニ當リ海岸防禦ニ從事セントキハ半箇年ヲ増加ス

第四十一條 出征軍ノ定メニアラスシテ一時出兵ノ時ト雖モ出征軍ト視做ス可キ場合ニ於テハ陸軍卿上請シテ從軍年ニ算入スルヲ決定ス

第四十二條 從軍年ヲ算スルノ法ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從フト雖モ重複シテ之ヲ算セス

但其一年以上ニ跨リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ前條ニ依リ之ヲ計算ス

第六章 恩給支給順序

第四十三條 恩給ノ願書ハ所管長官ヨリ檢閱監軍部長ヲ經テ陸軍卿ニ呈シ陸軍卿之ヲ太政官ニ上申ス

扶助料ノ願書ハ居住地ノ地方廳ヨリ陸軍卿ニ呈シ陸軍卿之ヲ太政官ニ上申ス(十七年甲二百十四號ヲ以テ改正)

第四十四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シテ後恩給許可令及ヒ恩給登錄寫帖ヲ內務大藏陸軍三卿ニ下シ內務卿ヨリ管轄地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受領ノ証ト爲サシム

恩給登錄寫帖ヲ下附スルノ前ニ於テ陸軍卿ハ其恩給ヲ受クヘキ本人ニ計算書ヲ下シ以テ其算則ヲ示ス

第四十五條 退職及免除恩給並ニ扶助料下賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 准士官以上ハ計算書日附ノ翌日
  - 二 下士卒ハ免官免役ノ翌日
  - 三 寡婦(孤兒)扶助料ハ當該軍人死去ノ翌日
- 第四十六條 恩給及ヒ扶助料ハ一月四月七月十月ニ前三箇月分ノ金額ヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下附ス但其交付者ハ恩給登錄寫帖ヲ披閱ノ上戸長ノ證セル本人生存書及金額受領證書ト引替ニ其金額ヲ交付ス

恩給若クハ扶助料ヲ受ケル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三箇月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ期日ヲ過ケル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之ヲ交付ス

第四十七條 恩給若クハ扶助料ヲ受ケル者權利消絶ニ屬スル時ハ地方廳其恩給登錄寫帖ヲ収メテ内務省ニ出シ内務省ハ之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省陸軍省ニ報告ス但扶助料移轉ス可キ者アルトキハ恩給登錄寫帖ヲ収メス更ニ扶助料請願ノ證ト爲サシム

第四十八條 恩給登錄寫帖ヲ受領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ失亡スル時ハ速ニ其旨ヲ届出可シ此場合ニ於テハ内務卿ヨリ證明書ヲ下付ス

第七章 賑恤金

第四十九條 賑恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス

- 一 下士卒戦闘或ハ戦地ニ於テ公務ノ爲メ傷疾疾病ヲ受ケ服役ニ堪ヘス免官除隊スト雖モ第十九條末項ヨリ輕傷ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第五項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス
- 二 下士卒平時公務ノ爲メ傷疾疾病ヲ受ケ前項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス
- 三 下士卒服役實期滿五年以上十一年未滿ノ者公務ノ故ニアラスシテ傷疾疾病ヲ受ケ全ク服役ニ堪ヘス其營業ヲ妨グルニ至ル者及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切斷ヲ受ケ若クハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

陸軍恩給金額表

甲號 準職恩給表

年數	官等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
一	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓
二	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓
三	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓
四	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓
五	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓
六	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓
七	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓
八	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓
九	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓
十	年	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓	千五百圓

乙號 退職及退役恩給表

年數	官等	一等	二等	三等	四等	五等
一	年	六拾圓	五拾四圓	四拾八圓	四拾四圓	四拾圓
二	年	七拾五圓	六拾七圓	六拾圓	五拾五圓	五拾圓
三	年	九拾圓	八拾壹圓	七拾貳圓	六拾六圓	六拾圓
四	年	百五圓	九拾四圓	八拾四圓	七拾七圓	七拾圓
五	年	百貳拾圓	百八圓	九拾六圓	八拾八圓	八拾圓



四

扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ從來死者ニ依リ生活セル二十歳未  
滿又ハ二十歳以上ト雖モ癡疾ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ教育スルノ親族ナキ者ハ其寡婦ニ  
相當セル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

第五十條 前條ノ賑恤金ハ本人ノ情願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ陸軍卿之ヲ詮議シ太政官特  
別ノ裁可ヲ以テ之ヲ下賜ス其金額ハ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス

第八章 給助金

第五十一條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ又ハ五年以上勤績キノ後罷役或ハ免官トナリ恩  
給ヲ賜ハラサル者ニ之ヲ給ス其給額ハ已號表面ニ依ル但懲戒ノ爲メ免官或ハ刑名宣告ニ至  
ラサルモ不正ノ所業確認ノ者ニハ之ヲ給セス

●明治十六年(九月)甲第百十四號

海軍恩給令別冊之通被相定候條此旨布達候事  
但從前ノ海軍ノ退隱令ハ廢止ト心得ヘシ

海軍恩給令

海軍恩給令目錄

- 第一章 總則
- 第二章 恩給及ヒ増加
- 第三章 寡婦(孤兒)扶助料
- 第四章 服役年算則
- 第五章 從軍年算則
- 第六章 恩給支給順序
- 第七章 賑恤金
- 第八章 給助金

海軍恩給令

第一章 總則

- 第一條 海軍恩給ハ海軍諸種ノ勤勞ニ依リテ之ヲ給スル者ナリ其種類別テ左ノ五項トス
- 一 退職恩給
- 二 退役恩給

三 寡婦(孤兒)扶助料

四 賑恤金

五 給助金

第二條 退職恩給退役恩給寡婦扶助料ハ本人ノ終身孤兒扶助料ハ男女共ニ二十歳ニ至ル迄之ヲ給シ賑恤金給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第三條 軍人ハ年限ノ年齢ニ達スレハ退職退役シテ恩給ヲ受ケルヲ例トス其年限左ノ如シ

軍醫大監	主計大監	六	十					
機關大監	機關中監	軍醫中監	軍醫少監	主計中監	主計少監	六	十	
大佐	中佐	機關少監	大軍醫	中軍醫	大主計	中主計	五十五	
掌砲上長	氷兵上長	木工上長	機關工上長	掌砲長	氷兵長	木工長	機關工長	樂長
少佐	大機關士	中機關士	少軍醫	少主計	下士	五	十	
大尉	中尉	少機關士	卒	四	十五			
少尉	軍醫補	主計補	三	十				
少尉補	機關士補	三	十					

第四條 軍人年限ノ年齢ニ達スト雖トモ前途尙ホ任用ニ堪ヘ若クハ材能特拔又ハ老練者ヲ要スル職務ニ在ル者ハ仍ホ留任ヲ命スルコトアル可シ但強テ現役ヲ辭スル者ハ此ノ限ニアラズ

第十七類 軍人恩給

第五條 軍人未タ定限ノ年齢ニ達セスト雖モ服役實期十一年以上ノ者ニシテ服役ニ堪ヘサルヲ認メタル時ハ海軍卿旨ヲ諭シテ現役ヲ退キ恩給ヲ願ハシムルコトアル可シ

第六條 恩給ハ公權剝奪ノ時ハ至ク之ヲ止メ左ノ各項ニ該ル時ハ其時間ノミ之ヲ停ム

一 公權停止ノ時

二 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時

三 政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時

第七條 恩給ヲ受ケタル者再ヒ現役ニ就キ若クハ文官ニ任シ俸給ヲ受ケル時ハ其間該恩給ヲ停ム但其負傷増加恩給ハ仍ホ之ヲ給ス

第八條 寡婦若クハ孤兒扶助料ハ當該軍人死没ノ日(戰地等ニテ死没ノ者ハ海軍官憲ヨリ報告ノ日)ヨリ一箇年間願出サル者ハ其權利消絶ス

第九條 恩給及ヒ扶助料ノ金額計算ニ就キ違算アリト思惟スル時ハ初メテ金額ヲ受領セシ日ヨリ三箇月以内ニ管轄地方廳ヲ經テ海軍卿ニ上申スヘシ若シ此期限ヲ過クル時ハ之ヲ受理セス

第二章 恩給及ヒ増加

第十條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ海軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲ニ傷病ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ之ヲ失フニ等シト認ムル者又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ航海中若クハ戰時ニ於テ健康ニ有害ナル感動ヲ受ケル事能ハスニテ非常ノ勞動及ヒ困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ健康ヲ妨害シ全ク職務ニ堪ヘサルニ至リ其證據明亮ニシテ退職スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス

其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト甲号表面ノ如シ但十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ其十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十一條 退職恩給ハ下士退役恩給ハ卒服役實期十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ或ハ服役滿期トナリ或ハ傷病若クハ疾病ノ爲メ退職若クハ退役スル者ニ之ヲ給ス

前條第二項ニ掲グルカ如キ傷病疾病ヲ受ケ永久健康ヲ妨害シ全ク兵役ニ堪ヘス其證據明亮ニシテ退職若クハ退役スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス

其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト乙號表面ノ如シ但十一年未滿ノ者ニ給ス可キ恩給ハ十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十二條 軍人傷病ヲ受ケルト雖モ尙ホ奉職セシメ後日退職若クハ退役スル者ハ現官等ニ依リ恩給ヲ給ス但負傷増加恩給ハ負傷當時ノ官等ニ依リ之ヲ給ス

第十三條 下士以上ノ恩給願書ハ所管長官ヲ經テ海軍卿ニ卒ハ所管長官ハ其履歷書ヲ副呈ス可シ

第十四條 傷病疾病ニ起因シ恩給ヲ願出ル者ハ其原因症候等詳細之ヲ開陳スヘシ

第十七類 軍人恩給



第十五條 傷疾疾病ヲ受ケシ事故及ヒ其原因ハ見證證書又ハ公文若クハ查問會議口供書ノ寫ヲ以テ之ヲ證明スヘシ

第十六條 傷疾疾病不治ノ狀ハ海軍病院長並ニ主任醫官（地方病院ニ於テ治療ヲ受ケシ者ハ其院長並ニ主任醫師）ノ診斷證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ  
其診斷證書ハ傷疾疾病ノ原因症候及ヒ其治療方法ヲ述ヘ以テ不治ノ狀ヲ詳悉スヘシ  
病院ニ就キ治療ヲ受ケサル者ト雖モ海軍病院長若クハ地方病院長ノ診斷證書ヲ要ス

第十七條 傷疾疾病不治ノ狀ハ軍醫若クハ地方醫師ノ證書ニ依ルト雖モ其軍務ニ堪ヘサルヤ否ヤ當該ノ所管ニ於テ檢査判定シ之ヲ海軍卿ニ呈スヘシ海軍卿ハ臨時調查委員ヲ選定シ更ニ覆覈セシメ以テ之ヲ決定ス

第十八條 下士以上恩給ヲ願フ時ハ所管長官其海軍卿ニ呈スル進達書ノ日ニ於テ直ニ休暇ヲ命シ卒恩給ヲ願フ時亦所管長官同上ノ日ニ於テ直ニ免役スヘシ

第十九條 凡恩給ハ軍人ノ現官階ニ依リ之ヲ給ス但其官階ニ進ミ未タ滿十八箇月ニ至ラスシテ退職若クハ退役ヲ願フ時ハ前官ニ準シテ之ヲ給ス其戰闘又ハ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ或ハ戰地若クハ航海中ニ於テ受ケタル疾病ノ爲メ恩給ヲ給スルハ此限ニアラス

第二十條 戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ左ノ各項ニ該ル者ハ恩給ノ外更ニ丙號表面ノ金額ヲ加給ス但公務ノ爲メ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナル者モ亦本條ニ準ス

一 兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者

二 前項ニ等シキ傷疾ヲ受ケシ者

三 一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フニ至ル者

四 前項ニ等シキ傷疾ヲ受ケシ者

五 全ク一肢ノ用ヲ失フ者

六 前項ニ等シキ傷疾ヲ受ケシ者

第二十一條 傷疾疾病ニ依リテ恩給ヲ受ケ引續キ重症ニ趨キ或ハ現役ヲ離レシ後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ願出ル時ハ檢査ノ上事實相違ナキニ於テハ更ニ恩給ヲ給シ或ハ負傷増加恩給ヲ給ス可シ但更ニ恩給ヲ願フハ現役ヲ離ルノ際其傷疾ノ爲メ服役シ難キ確定ヲ得タル者ニ限ル

一 一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ二箇年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ或ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ三箇年

第三章 寡婦（孤兒）扶助料

第二十二條 寡婦扶助料ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス其給額ハ當該軍人ノ官階ト死歿ノ緣故トニ依リテ差アリ

一 戰闘或ハ公務ノ爲メ死歿シ或ハ之ニ依リテ受ケタル傷疾ニ原因シテ死歿シ又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ航海中若クハ戰地ニ於テ非常ノ勞動及ヒ困苦ノ勤務ニ服シ爲メニ健康ヲ害セラレ發病終ニ死歿シ又ハ平時當務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染死

受シタル軍人ノ寡婦

二 退職若クハ退役恩給ヲ受ケタル後或ハ之ヲ受ク可キ權ヲ有シテ死歿シタル軍人ノ寡婦  
其扶助料第一項ニ該ル者ハ丁號表面ニ依リ第二項ニ該ル者ハ戊號表面ニ依ル

第二十三條 戦闘若クハ公務ノ爲メ傷疾ヲ受クルト雖モ其傷疾ニ原因セサル他病ニテ死歿シ  
タル軍人ノ寡婦ハ扶助料ヲ給セス

第二十四條 戦闘中踪跡ヲ失フ者其死亡公務ニ原因セシニ相違ナキヲ確認スル時ハ第二十二  
條第一項ヲ適用ス

第二十五條 寡婦ハ海軍簿籍ニ登記セシ者ニシテ其夫ノ現役ヲ去ルノ時ヨリ一箇年以前ニ嫁  
シタル者ニ限ル可シ但前妻若クハ現時ノ妻ニ生レタル兒子アレハ嫁時年月ノ查察ヲ要セス

又戦死或ハ傷疾疾病ニ原因シテ死シタル軍人ノ寡婦ハ嫁時ノ年月ニ關セス負傷又ハ發病前  
ニ婚配セシ者ニ限ル

第二十六條 寡婦其家ヲ去リ若クハ再婚スル時ハ扶助料ヲ受クルノ權消絶ス

第二十七條 寡婦死去シ或ハ前條ノ事故アリテ扶助料ヲ受クルノ權消絶スル時ハ當該軍人ノ  
孤兒(嫡子庶子養子ヲ論セス戸籍ニ登記セシ者但養子ハ死傷前ノ養子ニシテ男女コ拘ハラ  
ス家名ヲ繼承スルモノニ限ル)ニシテ其家名繼承ノ者ニハ寡婦ト等シキ扶助料其他ノ者コ

ハ其額三分ノ二ヲ給ス又當該軍人ノ死シタル時孤兒ノ母在ラサル者ハ直ニ其孤兒ニ給ス

第二十八條 孤兒扶助料ハ數子アル時ハ其年長ナル者ニ給シ權利消絶ノ期ニ至レハ順次年少  
者ニ及フ但二十歳未滿ト雖モ官署ニ奉職シ俸給ヲ受ケ或ハ其戸籍ヲ去リ或ハ男女共ニ嫁娶

シタル時ハ其權消絶ス

第二十九條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラル、時ハ之ヲ止メ更ニ其轉給ヲ受クヘ  
キ者ニ之ヲ給ス

第三十條 軍人死没シ扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受クル寡婦再嫁若クハ復  
籍シテ孤兒ナク尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ

子孫ナキ時ハ其情狀ニ依リ終身寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二ヲ給スルコトアル可シ其扶  
助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死没若クハ權利消絶スルコトアル

レハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ之ヲ轉給スヘ  
シ但父及ヒ祖父ハ年齢五十歳以上其未滿ハ癡疾及ヒ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者

又母及ヒ祖母ハ夫ナキ者ニシテ其孰レモ軍人死没ノ際年齢五十歳以上ニシテ其戸籍ニ在ル  
者ニ限ル

第三十一條 扶助料ヲ仰カントスル時ハ本人主名ヲ以テ親族二名及ヒ後見人アレハ其後見人  
若シ親族ナキ時ハ同郷ノ戸主二名連署シ其郡區長戸長ノ與印セシ願書ヲ以テ地方廳ヘ進達

ス可シ但恩給登錄寫帖アレハ之ヲ添附ス可シ

其夫若シハ父戰死其他公務ノ爲メ直ニ死亡セシ時ハ死亡報告若クハ死亡證書若クハ他ノ公  
文ノ内其一ヲ證據ニ供シ其傷疾疾病ニ起因スル者ハ該書類ノ外尙ホ軍醫若クハ地方醫師ノ

診斷書ヲ證據ニ供スヘシ但地方醫師ノ診斷ヲ受ケタル時ハ尙ホ地方官吏ノ檢視證書ヲ添附  
シ死没ノ原因ヲ詳細證明ス可シ海軍卿ハ之ヲ調査委員ニ下シ其實ヲ調査セシメ以テ決定

第四章 服役年算則

第三十二條 服役年ノ始期及ヒ終期ノ例ハ左ノ各項ニ依ル可シ

一 准士官以上ニテ四上長四長及ヒ樂長ヲ除クノ外ハ初任ノ日四上長四長及ヒ樂長以下ハ四等卒及ヒ樂生タルノ日ヲ以テ服役年ノ始期トス

但准士官以上ハ明治四年八月以前下士以下ハ明治二年五月以前准卒ハ海軍定員ニ准セサル以前ハ服役年ニ算入セズ然レモ其以前ヨリ勤仕シタル者ハ其算入期ノ前月ニ於ケル現官等ニ對スル俸給ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一ケ年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別ニ一時賜金トシテ給與ス

二 下士以上ハ退職恩給ノ願書ヲ所管長官ヨリ海軍卿ニ呈スル進達書ノ日卒ハ退役ノ日ヲ以テ終期トス

第三十三條 十七歳未満ハ恩給服役年ノ計算ニ算入セズ

士官以上待命及ヒ非職中ノ月日ハ服役實期ニ算入ス但非職中地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ從事シ其給料ヲ受ケ非職俸ヲ給セサル時間ハ之ヲ除算ス

第三十四條 陸軍軍人轉シテ海軍軍人トナル者ハ陸軍服務ノ年數ヲ通算ス又文官轉シテ海軍軍人トナリタル者並ニ海軍軍人ノ現役ニ在ラスシテ文官ヲ兼任シ文官ノ俸給ヲ受ケル者恩給ヲ受ケルノ期ニ至ル迄ハ其文官奉仕中ノ年月ハ十六箇月ヲ以テ一年トシ之ヲ通算ス

第三十五條 退職若シハ退役ノ後再ヒ現役ニ就ク者ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十六條 逃亡ノ者其逃亡以前ノ現役ハ其復歸以後ノ現役ニ通算ス

第三十七條 處刑中ノ日數ハ現役年數中ヨリ除算ス

第三十八條 戰時捕獲ニ遭ヒ俘囚トナリタル日ハ猶ホ平時現役ニ在ルト同シク之ヲ算ス

第五章 從軍年算則

第三十九條 從軍年ハ服役實期外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スル者トス但其服役實期十一年未満ニシテ退身スル者ニハ之ヲ加算セズ

第四十條 從軍年加算ノ法ハ左ノ各項ニ依ル可シ

一 日本國外ノ戰役ニ從事中ハ二箇年ヲ增加ス

二 出征艦隊ニ編入中及ヒ合圍若クハ臨戰地境內ニ服役中ハ一ケ年ヲ增加ス

三 戰時平時ヲ論セス外國航海中ハ半箇年ヲ增加ス

第四十一條 出征軍ノ定メニテ一時出兵ノ時ト雖モ出征軍ト視做ス可キ場合ニ於テハ海軍卿上請シテ從軍年ニ算入スルヲ決定ス

第四十二條 從軍年ヲ算スルノ法ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從フト雖モ重複シテ之ヲ算セズ但其一年以上ニ跨リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ前條ニ依リ之ヲ計算ス

第六章 恩給支給順序

第四十三條 恩給ノ願書ハ所管長官ヨリ海軍卿ニ呈シ海軍卿之ヲ太政官ニ上申ス

扶助料ノ願書ハ居住地ノ地方廳ヨリ海軍卿ニ呈シ海軍卿之ヲ太政官ニ上申ス(十八年甲二百十四號ヲ以テ改正)

第十七類 軍人恩給

第四十四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シタル後恩給許可令及ヒ恩給登錄寫帖ヲ内務大藏海軍ノ三卿ニ下シ内務卿ヨリ管轄地方廳ヲ經テ之本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受領ノ証ト爲サシム

恩給登錄寫帖ヲ下附スルノ前ニ於テ海軍卿ハ其恩給ヲ受クヘキ本人ニ計算書ヲ下シ以テ其算則ヲ示ス

第四十五條 退職及退役恩給並ニ扶助料下賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 下士以上ハ計算書日附ノ翌日
- 二 卒ハ免役ノ翌日
- 三 寡婦若クハ孤兒扶助料ハ當該軍人死没ノ翌日

第四十六條 恩給扶助料ハ一月四月七月十月ニ於テ前三箇月分ノ金額ヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス但其交付者ハ恩給登錄寫帖ヲ披閱ノ上戸長ノ證セル本人生存書及ヒ金額受領證書ト引替ニ其金額ヲ交付スヘシ

恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三箇月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ其期ヲ過クル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之ヲ交付ス

第四十七條 恩給若クハ扶助料ヲ受クル者權利消絶ニ屬スル時ハ地方廳其恩給登錄寫帖ヲ収メテ内務省ニ出シ内務省ハ之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省海軍省ニ報告ス但扶助料轉移ス可キ者アルトキハ恩給登錄寫帖ヲ收メス更ニ扶助料請願ノ證ト爲サシム

第四十八條 恩給登錄寫帖ヲ受領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ亡失スル時ハ速ニ其旨ヲ届

出可シ此場合ニ於テハ内務卿ヨリ證明書ヲ下付ス

第七章 賑恤金

第四十九條 賑恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス

一 下士卒職間或ハ職ニ於テ公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ服役ニ堪ヘス免官免役スト雖モ

第二十條末項ヨリ輕傷ニシテ退職退役恩給ヲ受ケサル者ハ其官階ニ應スル負傷増加表

第五項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

二 下士卒平時公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ前項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負傷増加表第

六項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

三 下士卒服役實期滿五年以上十一年未滿ノ者公務ノ故ニアラスシテ傷痍疾病ヲ受ケ全ク

服役ニ堪ヘス其營業ヲ妨クルニ至ル者及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切斷ヲ受ケ若

クハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階ニ應スル負傷増加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス五箇

年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

四 軍人死没シ扶助料ヲ受クヘキ其寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ從來死者ニ依リ生活

セル二十歳未滿又ハ二十歳以上ト雖モ癱疾ノ兄弟姊妹アリテ之ヲ教育スルノ親族ナキ

者ハ其寡婦ニ相當セル扶助料一箇年ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

第五十條 前條ノ賑恤金ハ本人ノ情願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ海軍卿之ヲ詮議シ太政官特

第八章 給助金

第十七類 軍人恩給

第五十一條 給助金ハ下士以上現役中死没シ又ハ五年以上勤續キノ後罷役或ハ免官トナリ恩給ヲ賜ハラサル者ニ之ヲ給ス其給額ハ已號表面ニ依ル但懲戒ノ爲メ免官或ハ刑名宣告ニ至ラサルモ不正ノ所業確認ノ者ニハ之ヲ給セス

●明治十七年(五月)乙第六十號

郡區役所 戶長役場

明治八年太政官第四十八號達陸軍武官傷疾扶助概則ニ據リ扶助料物受ノ者現行陸軍恩給令第六條第八條及第二十八條ニ掲載ノ事故アルキハ速ニ届書差出サシメ戶長與書証印之上郡役所ニ差出シ郡區役所ニ於テハ該届書添其都度事由上申スヘシ此旨相達候事

●明治十七年(九月)乙第百八號

郡區役所 戶長役場

舊陸軍恩給令ニ據リ恩給或ハ扶助料ヲ受クル者改正恩給令發布後ニ於テ其權利移轉若クハ停止及其他ノ事故ヲ生セントキハ總テ改正令ニ據リ處分相成旨其筋ヨリ違有之候條爲心得此旨相達候事

●明治十七年(九月)乙第百九號

郡區役所 戶長役場

舊海軍恩給令ニ據リ恩給料或ハ扶助料ヲ給與シタル者海軍恩給令發布後ニ於テ其權利移轉若



乙 號		退職及退役恩給表	
年 數	官 等	一 等	二 等
十一年	十一年	千九百五拾千五百六拾	千七百七拾
十年	十年	千九百七拾千五百八拾	千七百九拾
九年	九年	千九百九拾千五百九拾	千八百一拾
八年	八年	二千零一拾千六百零拾	千八百三拾
七年	七年	二千零三拾千六百二拾	千八百五拾
六年	六年	二千零五拾千六百四拾	千八百七拾
五年	五年	二千零七拾千六百六拾	千八百九拾
四年	四年	二千零九拾千六百八拾	一千九百一拾
三年	三年	二千一拾千六百九拾	一千九百三拾
二年	二年	二千一拾千七百零拾	一千九百五拾
一年	一年	二千一拾千七百一拾	一千九百七拾

丙 號		負傷增加恩給表	
年 數	官 等	一 等	二 等
十一年	十一年	六拾四圓	四拾四圓
十年	十年	六拾五圓	四拾五圓
九年	九年	六拾六圓	四拾六圓
八年	八年	六拾七圓	四拾七圓
七年	七年	六拾八圓	四拾八圓
六年	六年	六拾九圓	四拾九圓
五年	五年	七拾圓	五拾圓
四年	四年	七拾一圓	五拾一圓
三年	三年	七拾二圓	五拾二圓
二年	二年	七拾三圓	五拾三圓
一年	一年	七拾四圓	五拾四圓

丁 號		戰陣及公務ニ因リ死亡者ノ寡婦(孤兒)扶助料表	
項 目	官 等	一 等	二 等
一 項	千五百圓	千九百圓	千七百圓
二 項	九百圓	七百圓	六百圓
三 項	七百圓	六百圓	五百圓
四 項	六百圓	五百圓	四百圓
五 項	五百圓	四百圓	三百圓
六 項	四百圓	三百圓	二百圓
七 項	三百圓	二百圓	一百圓
八 項	二百圓	一百圓	五十圓
九 項	一百圓	五十圓	二十圓
十 項	五十圓	二十圓	十圓
十一 項	二十圓	十圓	五圓
十二 項	十圓	五圓	三圓
十三 項	五圓	三圓	二圓
十四 項	三圓	二圓	一圓
十五 項	二圓	一圓	零
十六 項	一圓	零	零

戊 號		寡婦(孤兒)扶助料表	
一 等	二 等	三 等	四 等
千五百圓	千二百圓	千圓	八百圓
千二百圓	八百圓	七百圓	五百圓
千圓	七百圓	五百圓	四百圓
八百圓	五百圓	四百圓	三百圓
七百圓	四百圓	三百圓	二百圓
六百圓	三百圓	二百圓	一百圓
五百圓	二百圓	一百圓	五十圓
四百圓	一百圓	五十圓	二十圓
三百圓	五十圓	二十圓	十圓
二百圓	二十圓	十圓	五圓
一百圓	十圓	五圓	三圓
五十圓	五圓	三圓	二圓
二十圓	三圓	二圓	一圓
十圓	二圓	一圓	零

己 號		給助金表	
一 等	二 等	三 等	四 等
千五百圓	千二百圓	千圓	八百圓
千二百圓	八百圓	七百圓	五百圓
千圓	七百圓	五百圓	四百圓
八百圓	五百圓	四百圓	三百圓
七百圓	四百圓	三百圓	二百圓
六百圓	三百圓	二百圓	一百圓
五百圓	二百圓	一百圓	五十圓
四百圓	一百圓	五十圓	二十圓
三百圓	五十圓	二十圓	十圓
二百圓	二十圓	十圓	五圓
一百圓	十圓	五圓	三圓
五十圓	五圓	三圓	二圓
二十圓	三圓	二圓	一圓
十圓	二圓	一圓	零

クハ停止及其他ノ事故生セシトキハ總テ恩給令ニ據リ處分相成候條爲心得此旨相達候事

●明治十七年(九月)乙第百十四號

郡區役所 戶長役場

今般太政官第廿一號ヲ以テ海軍志願兵徵募規則第十二條中改正之義御布達相成候ニ付テハ下士家族扶助金ノ義モ同様相心得ヘシ尤現今服役中ノ者滿期迄ハ從前ノ通給與相成候旨達相成候條爲心得此旨相達候事

但金額ハ改正ノ期月ヲ以テ下付スヘシ

●明治十七年(九月)乙第百十五號

郡區役所 戶長役場

舊海軍退隱令ニ據リ退隱料並ニ扶助料ヲ受ルモノ其金額授受ノ節自今戶長ノ証セル本人生存書(孤兒ハ年齡書)及ヒ金額受領證書ヲ差出シ右證書引換ニ該金額授受スヘキ旨達相成候條此旨相達候事

但退隱料及扶助料ヲ受ルモノ其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三ヶ月前

當廳ニ願出ヘシ若シ其期ヲ過ル者ハ仍ホ元所在ノ地ニ於テ交付スヘシ

●明治十七年(十月)乙第百十七號

郡區役所 戶長役場

海軍下士卒家族扶助金給與法左ノ通改定相成候條此旨相達候事  
一海軍兵員ニ編入及ヒ退職退役或ハ轉免死亡等ノ節一ヶ年未滿ノ端月アルトキハ其月數ニ應

シ月割ヲ以給與スヘシ

但養子又ハ復籍等ノ事故ニ依リ甲乙兩家ニ跨ル月ハ日割ヲ以テ區分給與スヘシ(十八年乙百十九號ヲ以テ但書追加)



二海軍刑法第九條第二十條第三十三條第三十四條第三十五條ノ罪ヲ犯シタル者  
其不在中ハ停止ス而シテ其給與法ハ仍ホ前項ニ準ス

三獨身ノ附籍者ハ給與スヘキ限ニ在ラス

四給與期月ハ六月十二月ノ二期トシ每期前半年分ヲ會計局ヨリ該家族居住ノ地方廳ヲ經テ下  
附スヘシ

●明治十七年(十二月)甲第百六十號

明治八年第四十八號公達陸軍武官傷疾疾病及ヒ死亡ノ者祭葬並其家族扶助概則ニ依リ扶助料  
ヲ受クル者其金額授受ノ節自今戶長ノ証セル本人生存書(孤兒ハ年齡書)及ヒ金額受領書ヲ差  
出シ右證書引換ニ該金額授受可致旨陸軍省達ニ因リ此旨布達候事

但扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスルトキハ金額交付期月ノ三ヶ月前ニ其所  
在ノ地方廳ニ願出ヘシ若其期ヲ過クル者ハ仍ホ元所在ノ地ニ於テ交付スヘシ

●明治十七年(十二月)乙第百五十六號

郡區役所 戶長役場

舊陸軍恩給令ニ依リ恩給扶助料ヲ受ケタルモノ改正陸軍恩給令御發布後ニ於テ事故生ゼシト  
キハ總テ改正令ニ據リ處分スヘキ等ノ處文官ノ職ニ就キタルモノ恩給等停止ノ事ニ限リ本年  
八月廿六日ヨリ改正令ニ據リ處分可致旨其筋ヨリ達相成候條此旨相達候事

但本文改正令ニ據リ恩給等停止スヘキ者ハ准官吏ト否トヲ問ハス總テ官廳ノ俸給ヲ受クル  
者ノ儀ト可相心得事

●明治十八年(七月)甲第百五十一號

陸軍恩給令附則左ノ通被定候條此旨布達候事

陸軍恩給令附則

第一條 屯田兵ノ恩給ハ左ノ各條ニ據ル可シ

第二條 屯田兵上長官士官ノ恩給並ニ其寡婦孤兒等ノ扶助料ハ凡テ本令ニ據リ支給ス

第三條 屯田兵下士ノ内北海道ニ移住ノ節定規ノ給助ヲ受ケサル者ニアリテハ總テ本令ニ據  
リ各種ノ恩給ヲ支給ス

第四條 屯田兵下士卒ニシテ定規ノ給助ヲ受クル者ニアリテハ服役年ノ爲メニ恩給ヲ受クル  
ノ權ナシト雖トモ戰鬪或ハ戰時平時ニ拘ハジス軍隊勤務中公務ノ爲メ死没又ハ傷疾疾病ヲ  
受ケ職務ニ堪サルニ至リ其證據明亮ニシテ免官免役スル者ハ凡テ本令ニ依リ各種ノ恩給ヲ  
支給ス但免除恩給ハ服役年數ニ關セテ十一年ニ等シキ額ヲ給ス

第五條 北海道ニ移住ノ節定規給助ヲ受ケサル者ノ服役年計算ハ本令ニ依ルヘシト雖トモ給  
助ヲ受ケシ下士卒ヨリ出身ノ士官ハ士官ニ就任ノ日ヨリ起算スヘシ

第六條 屯田兵上長官士官下士ノ現役ヲ辭シテ恩給ヲ受クルノ例ハ本令第三條憲兵ノ年齡ニ  
準ス

●明治十八年(九月)甲第百七十號

陸海軍恩給令並官吏恩給令ニ依リ恩給若シクハ扶助料ヲ受クルモノ其受領地轉換又ハ轉籍等  
ノ時取扱順序左ノ通被相定候條此旨布達候事

一恩給若シハ扶助料ヲ受ル者成規ニ從ヒ其受領地ヲ轉換セントスルトキ現授受ノ管廳ニ於テ

其願ヲ受クル節ハ開届タル上述ニ其旨轉換先キノ管廳へ通知スヘシ又轉換先キ管廳ニ於テ先ツ其願ヲ受クル節ハ現授受ノ管廳へ照會ノ上開届クヘシ

一寄留地管廳ニ於テ恩給若シハ扶助料ヲ受クル者其受領ノ權理消絶死亡者ヲ除クニ至リ又ハ轉籍及改姓名等ノ如キ本人ニ異動ヲ生スルトキハ其旨直ニ本籍戸長ヨリ本管廳へ届出其管廳ハ之ヲ速ニ寄留地ノ管廳へ通知スヘシ

一前各項ニ係ルモノハ其處分ヲ爲シタル管廳ヨリ其族籍姓名金額及開届並ニ異動届出ノ年月日等ヲ詳記シ速ニ内務大藏兩省へ届出ヘシ  
一明治八年第四十八號公達陸軍武官傷疾扶助概則並同年第四百四十八號公達海軍退隱令ニ依リ退隱料及扶助料ヲ受ル者モ右同様取扱フヘシ

●明治十八年(九月)甲第百七十一號

陸海軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受クルモノ賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルハ同令第六條第一項ニ準シ扶助料ヲ受クル者同上ノトキハ同令(陸軍ハ第二十八條海軍ハ第二十九條)ニ準スヘキ儀ニ候條此旨布達候事

但陸軍武官傷疾扶助死亡ノ者祭葬家族扶助概則及海軍退隱令ニ據リ扶助料若クハ退隱料ヲ受クルモノモ本文ニ準スヘシ

●明治廿年(九月)訓令甲第三十二號

陸海軍恩給令ニ依リ恩給並ニ扶助料賑恤金給助金等出願中轉籍寄留替等致シ届出テタルモノ往々有之右ハ恩給登錄寫帳並ニ金員下附ニ差支テ生シ不都合不抄候條自今右等ノ異動者有之

郡區役所 戸長役場

作ハ戸長ハ速ニ届出テシメ郡役所ヲ經テ之本廳へ差出スヘシ

○ 徵 發

●明治十六年(二月)乙第十二號

郡區役所 戸長役場

明治十五年第二十六號ヲ以テ徵發事務條例布達相成候ニ付テハ同例第二十五條ニ掲載セル船舶表ノ義ハ戸長ニ於テ附録第五號ノ書式ニ依リ調整シ毎年二月廿八日限リ所轄郡役所へ差出スヘシ郡役所ニ於テハ之レヲ取總メ三月十日限リ縣廳へ差出スヘシ此旨相達候事

●明治十六年(二月)丙第八號

郡區役所

徵兵事務條例第廿一條ニ掲載セル徵發物件表ノ義附録第三號ノ書式ニ據リ調整シ毎年三月十日限リ可差出此旨相達候事

●明治十六年二月十六日番外

郡區役所 戸長役場

客歲徵發令並徵發事務條例御發行相成候處元來該事項ノ義ハ有事若クハ演習行軍等ニ際シ急遽匆忙間調理スヘキ事務ニシテ其整頓完備スルト否トハ平素ノ注意如何ニアリ然ルニ無事ニ慣レ緩慢ニ流レ萬一有事若クハ演習行軍等ニ際シ調理上滯留候様ノ有之候テハ徵發令御發行ノ趣旨ニ乖戾シ甚ク不相濟義ニ付平素厚ク注意ヲ加ヘ徵發ノ時期ニ際シ不都合無之様致スヘシ此旨相達候事

●明治十六年(二月)丙第十一號

郡區役所

客歲徵發令御發行相成候ニ付テハ同令第八條ノ趣旨ニ依リ其郡區内徵發ニ應スルノ順序方法

便宜相定メ來三月三十一日限り可申出此旨相達候事

●明治十六年(二月)乙第廿二號

郡區役所 戸長役場

客歲徵發令御發行相成候ニ付テハ同令第八條ノ趣旨ニ依リ戸長ニ於テ其受持町村限り便宜ノ方法ヲ立テ來ル三月卅一日限所轄郡役所へ差出シ郡役所ニ於テハ其概況ヲ調査シ縣廳ニ可申出此旨相達候事

但取調順序方法ハ概略左ニ記載ノ類ト心得ヘシ

一 徵發令第十二條一項二項三項ニ就テハ賦課ヲ受クヘキ人名ノ順序ヲ定メ置ク等ノ類

二 同條四項ニ就テハ家屋ノ廣狹等ニ依リ賦課ニ應スヘキ順序ヲ定メ置クノ類

三 同條六項ニ就テハ船舶ノ大小ニ依ルカ若シハ其他ノ方法ヲ以テ賦課ノ順序ヲ定メ置ク等ノ類

四(十二條五項)飲水及ヒ其他徵發物件ヲ差出場所へ運送スル方法並ニ右ニ要スル人夫ノ割出シ方

五 同令第十三條各項等右ニ依テ類推スヘシ

シ方

●明治十六年二月廿三日番外

郡區役所

徵發令第八條ノ趣旨ニ依リ臨時徵發事務取扱手續左ノ通相定候條爲心得此旨相達候事

徵發事務取扱手續

第一條 徵發令第十二條第一項ニ載スル處ノ物品ハ平常各郡區現在ノ高ヲ調査シ臨時徵發ニ應スルノ豫備ヲナスヘシ

第二條 徵發ヲ受ケタルトキハ徵發物件表及ヒ第一條載スル處ノ調査書ヲ勘査シ適當ト見認ムル郡區ニ對シ現在高ノ半額ヲ目的トシテ其物件ヲ賦課スヘシ

但一郡區ノミ再應賦課ヲ受ルカ如キ不公平ノコトナキヲ要ス

第三條 物件賦課ノ方法ハ前條手續ノ如シト雖トモ時期ノ緩急ニ依リ適宜變更増減スルコトアルヘシ

第四條 徵發物件各郡區ニ賦課スルニ際シテハ主務ノ官吏ヲ派遣シ其事務ヲ監督セシムルコトアルヘシ

●明治十六年二月二十四日番外

郡區役所

徵發令第十二條一項ニ記載セル物件ハ實際便宜ノ方法ヲ以テ郡區現在ノ概數ヲ調査シ左ノ雜形ノ通製表ノ上毎年三月三十一日限り可差出此旨相達候事

何郡(區)米麥其他現在調表

月	米	麥	秣	鹽	醬油	味噌	漬物	梅干	薪	炭
一月										
二月										
三月										

十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月

七八六

備考  
 一米ハ糯米玄米トモ合算ス  
 一麥ハ大麥小麥其他種類トモ合算ス  
 一秣藁中ニハ喰藁ヲモ算入スヘシ  
 一米麥鹽醬油ハ石數ヲ率ケ其他ハ價目ヲ記載スヘシ

一本表ハ各地其所藏スル物品ヲ記載スルモノニシテ賣品ト否トヲ論セズ  
 一各物件ノ數量ヲ得ルハ容易ノ業ニアラス依テ人民日用品ハ毎年収積高物件賣買期節輸出入  
 時期及ヒ人口等ニ依リ秣藁ハ牛馬ノ員數ニ依ル等好ク各地ノ習慣ヲ參酌シ適宜其概數ヲ定  
 ムヘシ

●明治十六年(九月)乙第八十九號  
 徵發事務取扱手續別紙之通相定候條此旨相達候事  
 但各郡區町村ニ於テ相定タル應徵方法中本文取扱手續ニ抵觸スル廉ハ之ニ準シ改正スル儀  
 ト相心得ヘシ

郡區役所 戶長役場

徵發事務取扱手續  
 第一條 凡徵發令ニ依リ徵發物件ヲ賦課スルハ平時戰時ヲ問ハス軍事ニ關スル重大ノ件ニ付  
 時ニ臨ミ溢濫失機ノ弊ナカラシメテ要シ左ノ各條ニ於テ其手續ヲ定ム  
 第二條 本令第四條第一項縣ニ於テ徵發區トナリタルトキハ縣廳ヨリハ物件差出場所最寄郡  
 區ニ賦課スルヲ以テ其郡區役所ニ於テモ物件差出場所最近ノ町村ニ賦課スヘシ尤其供給ヲ  
 便ナラシムル爲メ各郡區長ハ隣區長ト豫テ商議シ其方法ヲ定メ又所轄町村ニ於テモ組合ヲ  
 定メ置シヘシ  
 但同條第二項三項郡區町村ヲ徵發區トシ陸海軍官憲ヨリ直ニ賦課セラレタル時ハ戶長ハ  
 郡長ニ郡區長ハ縣廳ニ速ニ届出ツヘシ又同條第四項船舶會社ニ於テ前條ノ如ク賦課セラ  
 レタルトキハ其町村區長ハ上文中ノ手續ヲナスヘシ

第十七類 徵發 七八七

第三條 同上二項郡區ニ於テ徵發區トナリタル片其郡區ヨリハ物件差出場所最近ノ町村ニ賦課シ若シ最寄町村ニ於テ賦課ノ員數ヲ滿クシムル能ハサルトキハ速ニ縣廳ヘ届出ヘシ

但シ令第五條ニ掲ケル其區内現在セサルモノヲ賦課セラレタル片届出方モ本文ニ全シ

第四條 同條第三項町村ニ於テ徵發區トナリタルトキハ其町村ニ於テハ準備ヲ整ヘ速ニ供給スヘシ若シ本令第十二條第四項以下各項及第十三條ノ各項ノ物件ニシテ賦課ノ員數ニ滿ル能ハサルトキハ戸長ハ速ニ之ヲ郡長ヘ届出郡區長ハ之ヲ縣廳ヘ届出ヘシ

但シ第二條但書第三條第四條ノ場合ニ於テ賦課ノ違シチナストキ及郡區長戸長ヨリ開申報告等チナストキハ急使或ハ電報ヲ以テスヘシ

第五條 徵發物件ヲ差出場所迄輸送スル賃錢ハ官ヨリ之レヲ給セス其徵發區ノ義務ニ係ルヲ以テ郡區ニ於テ徵發區トナリタルトキハ其郡内ノ協議費ヲ以テ支辨シ(二三郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ一郡ト見做ス)町村ヲ以テ徵發區トナリタル時ハ其町村ノ協議費ヲ以テ支辨ス(二三町村ニ一戸長役場ヲ置クモノハ一町村ト見做ス)ヘシ故ニ郡ハ一郡ノ聯合會區町村ハ區町村會又ハ役場所轄ノ町村聯合會ニ於テ豫メ徵収支出ノ方法ヲ定メ戸長ハ郡役所ヘ郡區役所ヘ之ヲ取纏メ其旨本廳ヘ届出ヘシ

第六條 郡區町村ニ於テハ徵發ノ供給ヲ便ナラシメン爲メ左ノ各項ニ依リ豫メ其手順ヲ定メ置クモノトス

一 本令第十二條第一項ノ物件ヲ縣廳ヨリ郡區ニ賦課シタルトキハ郡區ニ於テハ之ヲ其郡區内營業者ニ賦課スヘシ若シ賦課ノ數完全ナラサルトキハ縣廳ハ更ニ之ヲ他郡ニ賦課

シ終ニ各郡ノ營業者ニ相及シテ尙完全セサルトキハ之ヲ人民ニ賦課スル者トス故ニ賦課ヲ受ケタル郡區ニ於テ賦課ノ數ニ完全セサル場合ニ於テ之ヲ縣廳ニ報告スルハ努メテ神速ヲ要スルモノトス(十六年乙九十五號ヲ以テ改正ス)

二 同第二項第三項ノ郡區ニ於テ徵發區トナリタルトキハ其物件ヲ可成差出シ場所最近ノ町村ニ賦課スヘシ故ニ町村順序ハ豫メ定メ置キ難シト雖モ應徵組合町村ハ適宜定メ置クヘシ

但シ組合町村若シハ一町村限物件應徵ノ順序ハ適宜定メ置クヘシ

三 同第四項以下第十三條ノ各項町村ニ於テ徵發區トナリ徵發ヲ課セラレタルトキハ第四項六項等ノ賦課ニ應スルモノハ其町村内ニ於テ適宜順序ヲ定メ置キ速ニ供給スルヲ要ス

但同第四項ノ場合ニ於テ若シ社寺學校等ヲ宿舍トナストキハ其贈受人或ハ手傳人等ノ手當向モ常ニ豫定シ置クヘシ

第七條 徵發事務條例附錄第三號ノ一三及第五號ノ一ノ用紙ハ下附スヘキニ付毎年十月十五日限リ郡區役所ニ於テ取調申出ツヘシ

第八條 徵發物件表記入ノ法ハ明治十九年七月本廳乙第七十七號徵發物件調査方極概ニ據リ取調戸長ハ毎年二月一日迄郡區役所ヘ差出シ郡區役所ニ於テハ一郡區ノ物件表及船舶表瀛船表ヲ製シ各々二通ツ、毎年二月十五日限リ本廳ヘ差出スヘシ

但新造ノ汽船之レナルトキハ附錄第五號ノ三汽船表ヲ製シ差出スヘシ

第十七類 徵發

廿三年十一月  
訓令甲第七十  
號ヲ以テ第七  
條第八條第九  
條ヲ改正ス第  
二編七百九十  
丁ニ記載ス

第九條 徵發事務條例第五十五條評價委員トナルヘキモノ其町村ニ於テ四名乃至五名ヲ豫定

シ置クヘシ

第十條 同例第五十一條ニ依リ郡區長戸長ハ平常ノ賃價雇賃損料代價ヲ調査シヘシ

第十一條 同例第四十九條ニ掲クル管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均物價ハ毎年本廳ヨリ報告スヘシ

郡區長

●明治十七年一月三十一日無號

徵發事務條例附錄第三號物件表及第五號ノ一二西洋形船舶並日本形船舶表差出期限之義昨十六年乙第八十九號ヲ以テ相違置候處本年乙第十三號達之次第モ有之正誤等ノ爲メ時日ヲ費シ期日ヲ違ヘ候テハ不相成義ニ付精密調査ヲ遂ケ必ラス期限通差出スヘシ此旨訓示候事

●明治十七年(二月)乙第廿四號

郡區役所 戸長役場

徵發令第五條ニ依リ船舶ヲ徵發スルトキ其所有主甲地ニアリ船舶乙地ニアル場合ニ於テハ乙地ニ於テ徵發相成候儀ニ候條徵發事務條例附錄第五號ノ(二)日本形船舶表ヲ調製スルニ當リ若シ甲町村ノ船舶ニシテ定製船塲乙町村地内ニ設置ノ分ハ之ヲ乙村ノ部ニ可取調此旨相違候事

但農家ニ於テ耕作作用一途ニ相用候船ハ本文第五號ノ二表中ニ登記セサル義ニ候條爲心得此旨添達候事

●明治十八年(二月)乙第十七號

郡區役所 戸長役場

徵發物件表及船舶表差出シ期限ノ義ハ明治十六年當廳乙第八十九號達徵發事務取扱手續第七

條之通ニ候處期限ニ至リ不差出向モ有之不都合不少其筋達ノ次第モ有之自今延期不相成候條必ラス期限通り差出スヘシ此旨更ニ相達候事

●明治廿年(十一月)訓令甲第四十八號

郡區役所 戸長役場

凡兵事ニ關スル事務ハ事ノ大小ヲ問ハス輕忽ニ附スヘカラサルハ今更申迄モ無之候得共就中陸軍召集條例及ヒ徵發令ニ關スル事務ハ平常精密ニ講究シ有事ノ際躊躇無之様心得置カサルヘカラス然ルニ戸長ノ内誤解ノモノ往々有之不都合不少候抑用兵ハ最モ國家ノ大事庶々充員令狀ヲ誤用スル等アラハ爲メ人心ヲ動搖セシムルノミナラス兵卒ニ狐疑ヲ懷カシメ一朝事アルコ方リ前日ニ慣レ應募ニ形懸テ來スアラハ容易ナラサル事ニ候總テ戰端ヲ開ク場合ニ於テ國家ノ安危ヲ定ムルハ兵卒ノ神速ニ整頓スルト否トニ關スル重大事件ニ有之此時ニ際シ兵卒ノ發程ヲ遲緩ナラシメ或ハ徵發ノ供給ヲ便ナラシメ一度軍機ヲ誤ラシムルアラハ其罪地方關係ノ吏員ニ歸セサルヘカラス故ニ神速ノ運動ヲ爲サシムル爲メ平時ニ於テ臨時演習召集及徵發等ヲ實施スル義ニ有之候條常ニ左ノ區別ヲ了得スヘシ點呼召集ニハ時日ヲ定メ各地ニ集合シ各兵卒能ク軍紀ヲ遵奉スルヤ否ヲ驗シ定時演習召集ニハ時日ヲ定メ各兵ヲ屯營地ニ集合シ各種勤務ノ熟否及將校下士ノ軍略ヲ驗シ臨時召集ニハ時日ヲ定メ第一第二充員ヲ演習スルモノニテ或ハ徵發事務ヲ兼テ專ラ地方兵事ノ熟否ヲ驗スルモノナリ第一第二充員ノ實施ハ外寇或ハ内亂アリ戒嚴令ニ依リ一國ノ司令官戒嚴ヲ宣告シ戰時ノ知告アル場合ニ於テ行フモノニシテ若充員ヲ召集シテ尙不足スルトキハ後備軍ヲ召集シ尙不足スルトキハ第一豫備員ヲ徵集ス順次如斯シテ尙ホ兵ヲ要スルトキハ一國安危ノ分ル、處則チ全國大舉トシテ

國民軍ヲ徵集ス右ノ次第ニ付第一第二充員ハ容易ニ施行ナラサルモ臨時演習召集時演習召集點呼召集ハ常ニ施行可相成モノト相心得厚ク注意ヲ加ヘ混雜誤謬等生セサル様致スヘシ

○第十八類

○外國交際

○外國人旅行遊歩

●明治八年(七月)第二百十二號

內務省ヨリ左ノ通達相成候條厚ク相心得總テ輕忽ノ取扱無之様可致此旨及告示者也  
內務省達七月二日

外國人內地々貨物産等ノ學術研究或ハ病氣養生等無余儀事故ヲ以テ内地旅行致候節沿道宿驛旅亭止泊ノ節宿主免狀檢査不致者モ有之且外國人ノ内ニモ免狀檢査相拒ミ候者モ有之候哉ニ相聞候ニ付今般外務省ニ於テ通行免狀表裏面共別紙雜形ノ通改正致候條宿驛旅館渡世ノ者ニ於テ兼テ相心得外國人旅泊ノ節ハ右免狀一見ヲ了シ免狀ノ番號並國名姓名宿帳ニ記載シ置後日取調ノ節胡亂ノ申出無之様可致尤免狀改方等ニ付外國人身柄ニ應シ夫々相當ノ取扱致候様各管下宿驛ニ兼テ布達可取計依テ別紙免狀雜形相添此旨相達候事

但遷卒區戸長等平常一々免狀相改候テハ煩雜ニ涉リ候ニ付以來ハ臨時取調等ノ節免狀相改候條ト可相心得候事

第 號

外國人旅行免狀

國籍

姓名

身分

寄留地名

旅行趣意

旅行先及路筋

旅行期限

右ハノ保證ヲ以前書掲載ノ場所ニ旅行致シ度旨申立差許候條道路無故障相通可申事

明治 年 月 日

外務省 印

内地旅行外國人ニ

心得

一内地ニ旅行スル外國人ハ總テ各地方ノ規則ニ遵依スヘシ

一此免狀ノ日附ヨリ三十日間ニ必ス出立スヘシ

一本文旅行日限ヲ定ルト雖途中事故アリテ期限中ニ歸着スル能ハサル外國人ハ豫メ郵便ヲ以テ其國公使ヲ經テ其事故ヲ外務省ニ申立ヘシ

第十八類 外國交際 外國人旅行遊歩

- 一 此免狀返納期限ハ歸着ノ日ヨリ五日以内タルヘシ尤長崎函館等ノ遠方ヨリ出立シテ元地ニ歸着スル外國人ハ其國公使ヲ經テ外務省ヘ三十日以内ニ遞送スヘシ
- 一 旅行中止宿所ニ於テ必ス其宿主ニ此免狀ヲ示シ止宿ヲ請フヘシ尤途中ト雖遲幸又ハ區戶長ヨリ免狀ノ檢査ヲ請フ時ハ必ス此免狀ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以テ碎納トナストモ之ヲ示サル、外國人ハ差押ノ處分ヲ受クヘシ
- 一 此免狀ハ一人一已ノ用ヲナシ他人ヘ貸與フルヲ許サス
- 一 此免狀ヲ受テ内地ヲ旅行スル外國人ト雖各地方ニテ日本人民ト賣買取引及諸約定ヲ爲スヲ許サス
- 一 此免狀ニヨリテ旅行スル外國人内地ニテ日本人民ノ屋宅ヲ賃借シ又ハ寄留スルヲ許サス
- 一 遊獵ノ免許鑑札ヲ所持スル外國人ト雖内地ニ入りテハ發砲遊獵スルヲ許サス
- 一 旅行中事故アリテ半途ヨリ歸着シ猶行盡サ、ル殘ノ場所ヘ旅行セント欲スル外國人ハ假令許可セル場ト雖一旦此免狀返納致シ更ニ旅行ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 本文並此示令中掲載セル條例ヲ犯シタル外國人ハ外務省ヨリ一々其保證シタル公使ヘ告訴スヘシ

計十一款

●明治八年(七月)第二百五十四號  
 内務省ヨリ尙又左ノ通達相成候總テ本廳第二百十二號達書ノ通可相心得此旨可及告示者也  
 内務省丙第四十四號七月十八日

本月二日相達候外國人内地旅行願出候節相渡候免狀裏書示令ノ文字ヲ心得ト相改候且省使届入外國人右同斷ノ節相渡候免狀別紙之通改正候條此旨爲心得相達候事

第 號

外國人旅行免狀

- 國 籍
- 姓 名
- 官 仕
- 寄留地名
- 旅行趣意
- 旅行先及道筋
- 旅行期限

右ハ、ノ保證ヲ以テ前所掲載ノ場所ヘ旅行ノ義差許候條道筋無故障相通可申事

明治 年 月 日

外 務 省 印

裏 書

内地旅行外國人心得

一 内地ヲ旅行スル外國人ハ總テ各地方ノ規則ニ遵依スヘシ

一 此免狀ノ日附ヨリ三十日間ニ必ス出立スヘシ

第十八類 外國人旅行遊歩



- 一本文旅行日限ヲ定ルト雖モ途中事故アリテ期限中ニ歸着スル能ハサル外人國ハ郵便ヲ以テ其事故ヲ官仕スル其廳ヘ申立ヘシ
- 一此免狀返納期限ハ歸着ノ日ヨリ五日以内タルヘシ尤長崎函館等ノ遠方ヨリ出立シテ元地ニ歸着スル外人ハ其官仕スル廳ヲ經テ外務省ヘ三十日以内ニ遞送スヘシ
- 一旅行中止宿所ニ於テ必ス其宿主ニ此免狀ヲ示シ止宿ヲ請フヘシ尤途中ト雖遲卒又ハ區戸長ヨリ免狀ノ檢査ヲ請フ時ハ必ス此免狀ヲ示スヘシ如何ナル事故ヲ以テ辭柄トナストモ之ヲ示サ、ル外人ハ差押ノ處分ヲ受クヘシ
- 一此免狀ハ一人一已ノ用ヲナシ他人ヘ貸與フルヲ許サス
- 一此免狀ヲ受テ内地ヲ旅行スル外人ト雖各地方ニテ日本人民ト賣買取引及諸約定ヲ爲スヲ許サス
- 一此免狀ニヨリテ旅行スル外人内地ニテ日本人民ノ屋宅ヲ賃借シ又ハ寄留スルヲ許サス
- 一遊獵ノ免許鑑札ヲ所持スル外人ト雖内地ニ入リテハ發砲遊獵スルヲ許サス
- 一旅行中事故アリテ半途ヨリ歸着シ猶行盡サ、ル殘リノ場所ヘ旅行セント欲スル外人ハ假令許可セル場所ト雖一旦此免狀返納致シ更ニ旅行ノ許可ヲ受クヘシ
- 一本文並此示令中掲載セル條例ヲ犯シタル外人ハ外務省ヨリ一々其官仕セル廳ヘ照會シ同廳ニテ相當ノ處分アルヘシ

計十一款

明治八年(十一月)第三百八十五號

左ノ通御達相成候條此旨相心得届方不都合無之儀其筋渡世ノ者共へ可及告示者也  
 太政官第百八十九號十一月二日

外國人遊歩規定内ニ係ル

使 府 縣

外國人遊歩規定内ニ於テ旅籠渡世ノ者ニ限リ外國人止宿差許候條外國人止宿セシメ候節ハ宿主ヨリ戸長又ハ扱所へ可届出若シ病氣療養ノ爲メ長ク止宿セシメ候節ハ日數七日毎ニ管轄廳へ届出候様可致此旨相達候事

●明治八年(十二月)第四百廿二號

左ノ通内務省ヨリ達相成候條條宿驛並ニ往還筋ノ者へ可及告示者也  
 内務省乙第百五十九號 十二月五日

外國人ノ内身分等級等有之者内地旅行ノ節ハ其都度相達來候處自今別段ノ取扱ヲ要セサルモノハ一々不相達候條免狀ニ記載有之身分ヲ證認シ不都合無之様可取計旨管下其向々へ相達置可申此旨相達候事

●明治十二年(六月)甲第百十八號

外國人遊歩規程内止宿ノ儀ニ付テハ明治八年縣治報知第百六十號太政官第百八十九號ヲ以テ公達相成居候處自今旅籠渡世ノ者ニ非スト雖モ從來懇親ノ外人ヲ招泊セシメ又ハ疾病其他不得止事故アリテ宿泊セシムルハ若シカラス候尤最寄警察署及ヒ分署或ハ巡回巡查戸長等へ届出候儀ハ從前ノ通可相心得旨公達相成候條此旨遊歩規定内ニ係ル郡内へ布達候事

第十八類 外國人旅行遊歩

●明治十二年(十月)甲第貳百五號  
旅行免狀ヲ携帶スル外國人旅行ノ節疾病其他不得止事故アルハ旅籠渡世ノ者ニ無之トモ一時宿泊セシメ不苦尤モ同時ニ必ス其事故ヲ詳記シ戶長役場へ可届出若シ滞留數日ニ及フ片ハ七日毎ニ該役場へ可届出此旨布達候事

○外國人居留地

●明治九年(四月)第百五十號  
左ノ通内務省ヨリ達相成候條此旨可及告示者也  
内務省達乙第四十二號三月二十日  
外國人寄留地外ニ住居之儀ハ是迄雇人ニ限リ特別許可有之其同姓之親戚及外國人婢僕ハ届出之上同居爲致差支無之儀ニ候處其他之外國人ヲ一時之止宿ニ非スシテ同居爲致候儀ハ不相成候條人民ノ内外國人ヲ雇入候者へモ夫々達方可取討此旨相達候事

○外國人ニ地所家屋貸與

●明治十八年(六月)甲第百廿八號  
新潟夷兩港ニ於テ外國人ニ地所家屋ヲ貸與シ若クハ住居止宿セシメタルハ其旨所轄警察署分署及ヒ郡區役所戶長役場へ届出ヘシ  
●明治二十年(八月)縣令甲第百十三號

宿屋又ハ懸意間ニ於テ外國人ヲ止宿雜居セシメ若クハ地所家屋ヲ貸與スル義左之通違々差許相成候處右届出方區々相成居候ニ付爾來ハ其都度國所氏名又旅行遊歩雜居等ノ理由(貸借等約條書アルモノハ約條書寫ヲモ相添)ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署へ届出ヘク且ツ止宿滞在七日己上ニ及フ節ハ七日毎ニ届出ツヘシ違フ者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

- 一新潟夷兩港内ニ於テ外國人ニ地所家屋ヲ貸與シ若クハ住居止宿セシムル事
- 一遊歩規程内ニ於テ外國人ヲ止宿セシムル事
- 一遊歩規程外ニ於テ旅行免狀ヲ所持スル外國人ヲ止宿セシムル事

○外國公使館等ニ寄留

●明治十九年(十二月)訓令甲第八十一號  
郡區役所 戶長役場  
外國公使館領事館又ハ居留地外國人所有之家屋ニ寄留シタル者ハ本人(幼者ハ後見人又ハ親族)壹名ヨリ届出ヘク其寄留地ヲ去リ本籍地へ復歸又ハ更ニ他へ寄留シタルノ届書ヲ本籍戶長ニ於テ受領シタル片ハ本籍戶長ヨリ前寄留地ノ戶長へ通報スヘシ

○外國人備被備

●明治廿一年(十二月)告示第百廿一號  
外國人備入ノ義ニ付テハ明治十年三月布告モ有之候處往々伺出ノ向モ有之自今左之通り相心

第十八類 外國人居留地 外國人ニ地所家屋貸與 外國公使館等ニ寄留 外國人備被備

得ヘシ

一人民ニ於テ外國人ヲ傭入ント欲スル者及ヒ既ニ允許ヲ得テ後其業務ノ都合ニヨリ居留地外  
へ住居爲致度者ハ必ス本廳ノ指揮ヲ請フヘシ  
但シ其國所姓名業務給料住所期限等明記スヘシ  
一繼續傭傭共前項ノ手續ヲナスヘシ

●明治廿二年(一月)訓令甲第四號

郡區役所 戶長役場

私傭外國人傭入繼續傭傭並居留地外へ住居爲致候儀ニ附テハ明治二十一年(十二月)告示第二  
百二十一號ノ次第モ有之候ニ附右ノ場合ニ於テハ左記離形ノ通相認メ戶長與書ノ上書面差出  
サシムヘシ

私傭外國人傭入届

何國何(府縣)何職

現住所何(府縣)何(郡區)何(町村)何番地寄留

姓

名 年 齡

右ノ者何(學校會社)何(教師職)トシテ本年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何ク(年月)給料金  
何程ニテ傭入候ニ附此段御届申上候也

年月日

新潟縣何(郡區)何(町村)何番地(寄留)

華士族平民

〔何(府縣)華士族平民〕

傭主

姓

名 印

私傭外國人傭繼續届

何國何(府縣)何職

姓

名 年 齡

右ノ者何(學校會社)何(教師職)トシテ明治何年何月何日ヨリ全何年何月何日マテ何ク(年月)  
給料何程ニテ傭入置候處業務ノ都合ニ依リ右期日ヨリ何ク(年月)間從前ノ給料高(或ハ何ク  
(年月)給料何程)ニテ繼續傭候ニ附此段御届申上候也

年月日

新潟縣何(郡區)何番地(寄留)華士族平民

(何(府縣)華士族平民)

傭主

姓

名 印

外務大臣宛

私傭外國人解傭届

何國何(府縣)何職

姓

名 年 齡

右ノ者何(學校會社)何(教師職)トシテ何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何ク(年月)間傭入  
置候處今般滿期ニ附(或ハ都合ニヨリ雙方協議濟ノ上何月限リ)解傭候間此段御届申上候也

第十八類 外國人傭被傭

廿二年四月訓  
令甲第三十五  
號ヲ以テ私備  
外國人居留地  
外ノ僑寓者轉  
居加ス第二編  
七十九十四丁  
ニ掲ク

年月日	新潟縣何(郡區)何(町村)何(寄留)華士族平民
外務大臣宛	(何(府縣)華士族平民)
私備外國人居留地外ノ僑寓願	雇主 姓 名 印
	何國何(府縣)何職 姓 年 名 齡
右ノ者今般何(學校會社)何(教師職)トシテ雇入候ニ附テハ業務ノ都合ニ依リ新潟縣何(郡區)何(町村)何(寄留)地(自宅或ハ何某所有家屋借受ケ)僑寓爲致度候間御許可被成下度此段奉願候也	新潟縣何(郡區)何(町村)何(寄留)華士族平民
年月日	(何(府縣)華士族平民)
	雇主 姓 名 印
外務大臣宛	
明治十八年五月十八日番外	
本邦人民ニシテ區內在留外國人ノ雇ニ應シテ使役セラレ又ハ解雇セラレ候節ハ其時々區役所 へ可届出此旨新潟區内へ布達候事	
但前々ヨリ被雇人タル者ハ本月三十一日迄ニ同役所へ届出スヘシ	

○外國人ノ救助恩惠

●明治十四年(七月)甲第百四十三號  
人民不慮ノ困難ニ遭ヒ外國人ノ救助或ハ恩惠ヲ受候モノハ其都度郡役所ヲ經事由可届出此旨  
布達候事

○清國居留日本人取締

●明治十六年(十月)告第百十四號  
今般清國上海居留日本人取締規則別紙ノ通り制定候旨其筋ヨリ申越候ニ付テハ自今該地へ渡  
航スル者ハ右規則熟知ノ上出發候標可致此旨告示候事

清國上海居留日本人取締規則

- 一 飲食店旅館屋等ノ營業ヲ爲ス者ハ領事館ノ成規ニ從テ願出許可ヲ受クヘシ
- 一 上海ニ來ル内國人ハ到着ヨリ四十八時間内ニ其趣ヲ届出ヘシ
- 一 但已ムヲ得サル事故アリテ届出延引シタル時ハ其事故詳細ニ申出ヘシ
- 一 轉居旅行歸國等ハ其前日マテニ届出ヘシ
- 一 但届出ノ時日ナキモノハ其事情ヲ申出當日届出ヘシ
- 一 護照ヲ受ケスニテ猥リニ清國內地ヲ旅行スヘカラス
- 一 商店ヲ開クモノハ少クモ三日前ニ届出ヘシ

- 一 結髮者斷髮者ニ拘ラズ帽子ヲ冠ラズシテ外出スヘカラス
  - 一 婦人ニシテ鬚ヲ断髮シ又ハ男裝ヲ爲スヘカラス
  - 一 男女トモ外出スルハ必ズ相當ノ衣服ヲ着用スヘシ
  - 一 室外ハ勿論室内ト雖モ往來ヨリ見送カヌ場所ニ於テ裸體袒裼或ハ股脚ヲ露ハス等都テ見苦シキ所行ヲ爲スヘカラス
  - 一 以上ノ諸件ニ違背スル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 但他ノ法律規則ニ明文アルモノハ其本條ニ從テ處分スヘシ

○外國出稼

●明治十五年(四月)甲第八十五號  
我國人民海外へ渡航ノ節携帶スヘキ旅券ノ儀ハ明治十一年外務省第一號布達ノ次第モ有之候處向後露國樺太島へ出稼志願ノ者ハ在哥爾薩港領事館宛ノ請願書ヲ以テ添書下附ノ儀ヲ本廳へ願出ノ上該請願書添書トモ當人ヨリ右領事館へ差出許否ヲ受候儀ト可相心得此旨布達候事但哥爾薩港ノ儀未タ郵便通信定期往復ノ船便モ無之ニ付テハ領事館宛ノ請願書並ビ本廳ノ添書トモ糊封ノ上願人貫籍姓名詳記シ願件ヲ傍書シテ外務省へ差出候上同省ノ公信便ヲ以テ該領事館へ送致シ可遣尤右書面ノ儀ハ願人携帶シ又ハ好使ニ托シテ出願スルモ其便宜ニ任セ候事

●明治二十年(十月)告示第百九十四號

布哇國出稼人契約書別冊之通り其節ニ於テ改正アリタリ  
布哇國辦理公使兼移住民事務局特派委員ロヘルト、タブリウ、アルウイン氏ノ代表スル同國政府甲約者ト成リ日本人 乙約者ト成リ締結シタル約定證書  
右乙約者ニ於テハ農夫トシテ布哇國へ赴クヲ希望シ日本政府ニ於テハ之ヲ許可シ布哇國政府ニ於テハ右乙約者ノ妻及子二人(若シ同行スルハ)ヲ横濱ヨリ布哇國陸マテ無賃コテ渡航セシメ其地へ到着ノ上ハ右乙約者ヲシテ農事ニ被雇セシメ且其妻へモ職業ヲ得セシムルヲ約定シ又右兩約者ハ像メ結納スルニ非カレハ或ハ相互間ニ誤解ノ恐アルヲ以テ之ヲ避シカ爲メ前陳ノ目的ニ因リ直ニ結納セシムルヲ決シテ依テ本約定ヲ締結シ以テ定ムルヲ左ノ如シ  
布哇國政府ハ下文ニ掲載スル條款ニシテ右ノ約者ノ確守履行スヘキ者ニ對シ左ノ條々ヲ契約ス

第一條 右乙約者 其妻 及其子二人(若シ同行スルハ)本約定ノ下段ニ其旨ヲ記入スル者トス)ニ下等船室及相當ノ食物ヲ給與シ横濱ヨリ「ホノル」迄渡航セシムヘシ且「ホノル」ヨリ前陳被雇ノ場所迄モ相當ノ取扱ヲ以テ右乙約者及其家族ヲ送致スヘシ右渡航者ヲ載セ横濱ヨリ「ホノル」ニ航海スル船舶ハ神奈川縣知事ノ至當ト認ムルモノニ限ルヘシ

第二條 右乙約者「ホノル」へ到着ノ上ハ布哇政府ニ於テ其就業ノ月ヨリ滿三ケ年間農夫ノ業ニ就カシメ又右乙約者ノ妻ニモ職業ニ就カシムヘシ尤モ右職業ヲ得ル迄ハ布哇政府ニ於

テハ右乙約者及ヒ其家族ニ攝生上ノ差支ナクシテ相當ノ便宜アル宿所ヲ附與ス可シ而シテ  
布哇政府ハ此約定ノ繼續スル間ハ右乙約者及ヒ其家族ニ無代價ニテ炊用ノ薪炭ヲ給與スヘ  
シ

第三條 布哇政府ハ宿所ト共ニ就業ノ日ヨリ右乙約者ニ一ヶ月十五弗其妻ニ一ヶ月十弗宛ノ  
給料ヲ合衆國ノ金貨ニテ拂渡スヘシ且其子二人マテハ一人ニ付一ヶ月一弗宛食料トシテ給  
與スヘシ右乙約者及ヒ其家族所用ノ「フランクセント」夜具等ハ自辦タルヘシ

第四條 布哇政府ハ醫師ヲシテ右乙約者及ヒ其家族ヲ無料ニテ治療セシメ又之ニ藥劑ヲ給與ス  
可シ

第五條 布哇政府ハ日數廿六日間即チ耕地ニ在テハ毎日十時間宛砂糖製造所ニ在テハ毎日十  
二時間宛勞働スルヲ以テ此約定ニ定ムル農夫一ヶ月ノ勞役ト爲スヘシ右勞役時間外ニ一日  
ノ内三十分間以上勞働スルモノハ一時間毎ニ右乙約者ハ十二仙五厘其妻ハ八仙ノ割合ヲ以  
テ増シ給料ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第六條 布哇政府ハ其法律ニ則リ右乙約者及ヒ其家族ヲ公平完全ニ保護シ且此約定ノ繼續ス  
ル間ハ右乙約者及ヒ其家族ニ各種ノ人頭稅ヲ一切課セサルヘシ

第七條 布哇政府ニ於テハ右乙約者及ヒ其妻ニ給料トシテ拂フヘキ金額ノ内ヨリ其一割五分  
ヲ引去リ之ヲ同約者ノ名ヲ以テ雇主ヨリ直接ニ在「ホノル」日本總領事館ニ預ケ置ク可シ  
尤右預ケ金額同總領事ヨリ東京大藏省ニ預クヘキモノトス又此預ケ金額ニ對シ日本總領事  
ハ右乙約者ニ受取証書ヲ交付ス可シ右手續ニ由リ大藏省ニ預ケル金額ニハ壹ヶ年

朱ノ利子ヲ附ズヘキモノトス

第八條 布哇政府ハ右乙約者ニ職業ト給料ヲ得セシムヘキヲ以テ同政府ハ其適當ト思考スル  
耕地ニ右乙約者ヲ送附シ之レヲ招還シ若クハ再ヒ之ヲ送附スルノ權利アルモノトス但シ右  
招還若クハ再勤ノ場合ニ於テ臨時要スル入費ハ一切布哇政府之ヲ支辨スヘシ

第九條 右乙約者ハ此約定ニ因リ指定シタル船舶ニ乗込「ホノル」府ニ赴クヘシ

第十條 右乙約者ハ「ホノル」府ニ到着ノ上至當ナル故障ナキニ限り布哇政府ノ此約定ニ因  
リ授與スル職業ヲ承諾スヘシ尤モ如斯故障アルハ其當否如何ヲ移住民事務局ノ裁決ニ付  
スヘシ

第十一條 右乙約者ハ必需ノ諸入費支辨ノ爲メ布哇政府ヨリ金 圓受取タルコトヲ承認シ而  
シテ其就業ノ日ヨリ月賦ヲ以テ該金額ヲ償還スルコトヲ約ス右月賦ハ皆納ニ至ルマテ毎月

圓ヨリ多カラサル金額ヲ雇主ヨリ移住民事務局ニ納附スルモノトス但シ一ヶ月内二十日  
以上疾病ニ罹ル場合ニ於テハ其月ノ月賦ヲ猶豫スヘシ

第十二條 右乙約者ハ此約定ノ繼續スル間ハ其各條款ヲ遵守履行シ而シテ布哇國ノ法律ヲ遵  
奉スヘシ又布哇政府ノ指定スル正當ニシテ且ツ其法律ニ違背セサル職業即チ本約定ニ記載  
ノ者ハ總テ之ヲ就業ノ日ヨリ滿三ヶ年間誠實ニ勉勵スヘシ

西曆一千八百八十七年 月 日横濱ニ於テ和文並英文ヲ以テ本約定書ヲ三通ニ制シ之ニ  
記名調印シ右甲乙約者各其一通ヲ所持シ他ノ一通ハ之ヲ神奈川縣知事ニテ保存ス

布哇國辦理公使兼移住民事務局特派委員

隨 意 渡 航 人

右約定ハ雙方ノ約者本官ノ面前ニ於テ締結シタルモノニシテ本官ハ日本皇帝陛下ノ政府ヨリ委任セラレタル職權ヲ以テ右約定ヲ認可シタリ因テ茲ニ之ヲ証明ス

神奈川縣知事

現 行  
新潟縣法規類纂下卷終

明治廿二年七月廿五日第一版出版  
明治廿四年七月廿八日第二版印刷  
全 年 全 月 廿九日出 版

定價 金三圓五拾錢

編輯者 早 川 教 忠  
新潟縣新潟市學校町通二番町  
四百六番地

發行者 櫻 井 産 作  
新潟縣新潟市本町通七番町  
五番戶

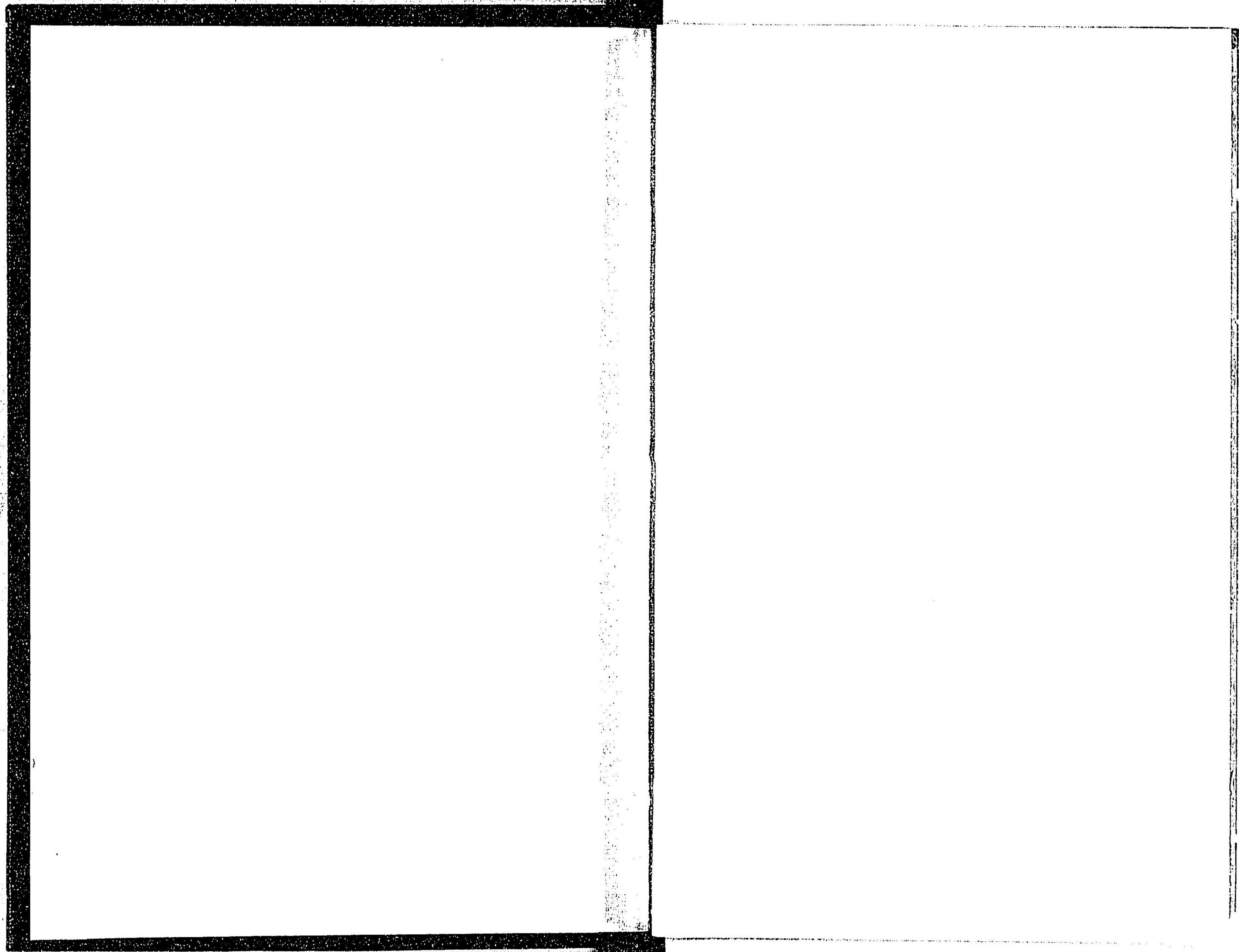
印刷者 高 橋 新 吉  
新潟縣新潟市東堀前通九番町  
九番戶

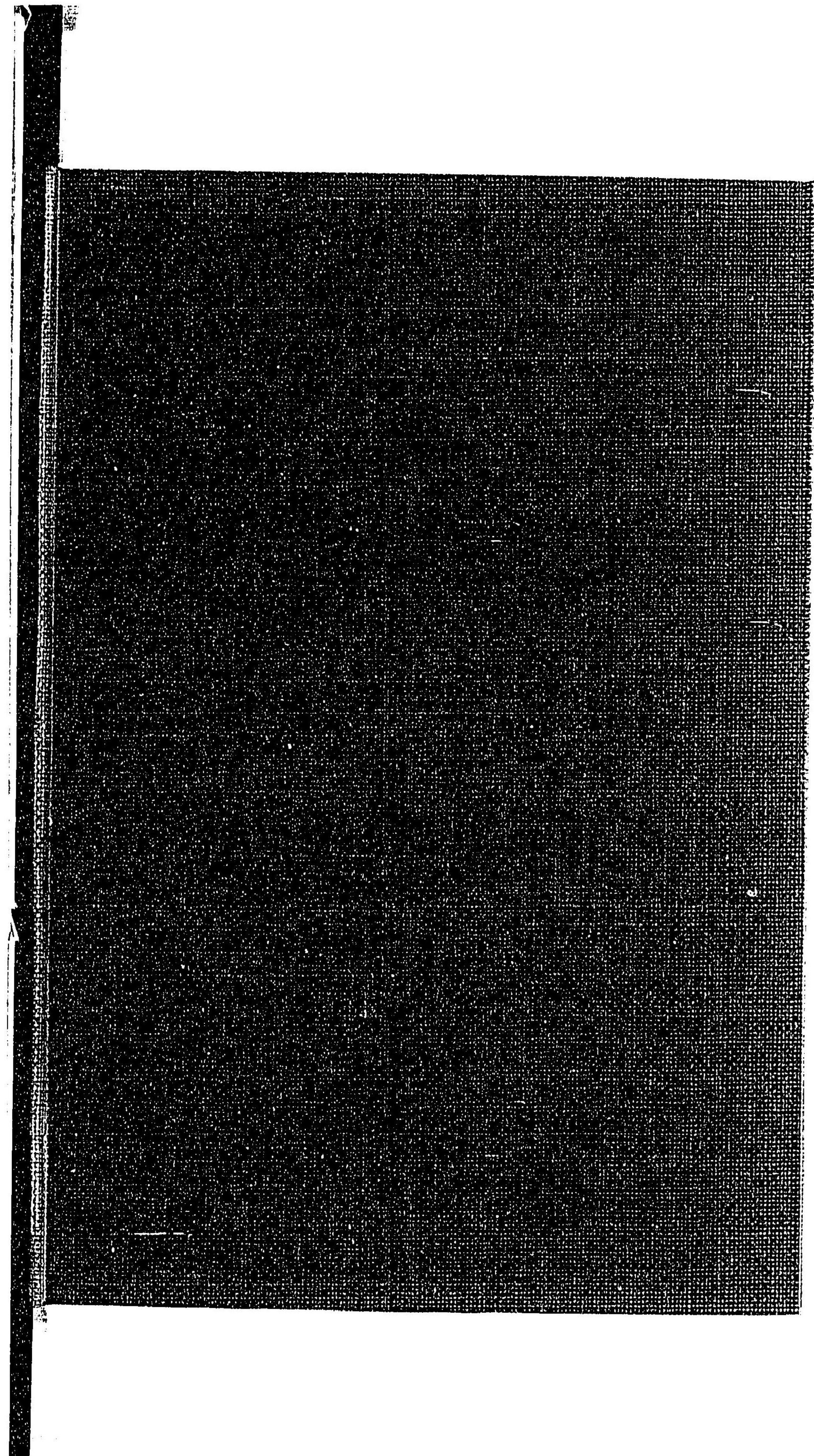




F#18-29







禁電子式複写

